

教育研究所における研究

盛岡市教育研究所

所長 佐々木 寿 洋



県南の市の初任地で、初めて生活科研究員の一人として「教育研究所」の研究に取り組んだ。

当時、生活科がスタートしたばかりで、市の子どもたちが楽しんで学習したくなる副読本の作成が課題だった。実際に市内各所を歩き、取材し、写真を撮ったり、イラスト案を描いたりした。研究員が行った授業も振り返り、何度も修正し、副読本が完成した。

先日、書棚にあったその副読本を見つけた。手に取りページを開くたびに、作成時について思い出すだけでなく、この本

で学習している子どもたちの笑顔が浮かんできた。

その後も、様々な教科等に係る「教育研究所」の研究に関わったが、研究対象は担任する子どもたちだけではなく、地域全体の子どもたちである。「教育研究所」の研究は、地域の実態に対応しており、担任する子どもたちの課題改善に直結していると考えていた。

本年度「盛岡市教育研究所」が取り組んだ「研究」事業の研究員研究は、社会科副読本改訂及び副読本を活用した授業研究、並びに算数・数学科、中学校外国語科及び、小中学校における体力向上の諸調査等の結果を活用し、課題解決するための指導法の研究・提案であった。また、中学校外国語科の研究には、ICT活用も取り入れられた。

その他専門研究員研究、委託

研究全てが、本市の喫緊の課題に係る研究であり、子どもたち、教職員のニーズに応じたものであった。

1月7日の教育研究所研究発表大会に参加いただいた方々には、この研究と提案を直接周知した。

今後は、これらの研究について更なる普及を図り、課題改善

に向け、教育の質的向上に努めることが重要である。

多忙なところ、研究に関わっていただいた皆様への感謝と共に、その成果が学校の関係教職員に共有され、実践に生かされることを通して、子どもたちの資質・能力が高まることを期待している。

こずかた写真館 ⑤4

いきいきスクール

～勾玉磨き体験の様子～



今年度5回目となる「いきいきスクール」を開催しました。ひろばモリーオや市内小中学校の子どもたち19名が参加し、子ども科学館での実験教室やプラネタリウム鑑賞、遺跡の学び館での創作活動を楽しみました。科学の不思議に驚いたり、星空の美しさに感動したり、勾玉磨きに夢中になったりと、心揺さぶられる体験とその喜びを仲間と分かち合うことができる貴重な時間を過ごしました。

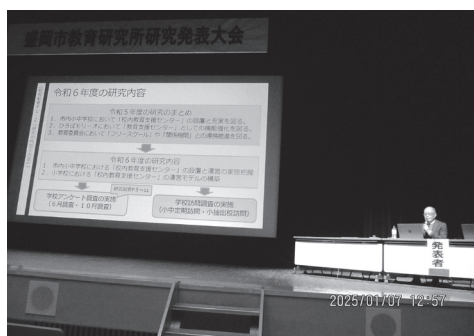
令和6年度盛岡市教育研究所

第59回研究発表大会

令和7年1月7日、都南公民館・キヤラホール及び盛岡市好摩体育館を会場に、第59回目の研究発表大会が開催され、市内外から約300名の先生方に参加いただきました。ここでは、全体研究発表及び分科会発表の様子について、参加者の感想等を交えながら紹介します。

全体研究発表

今年度の全体研究発表では、昨年度に引き続き、盛岡市の喫緊の課題である「児童生徒の不登校対策に関する研究」、「小中学校におけるICT活用に関する研究」の2本を発表しました。



不登校対策に関する研究



ICT 活用に関する研究

しながらモデル提示がされました。また、ICT活用の発表では、盛岡市の学校教育にお

不登校対策の発表では、市内小中学校における校内教育支援センターの現状を踏まえた運営の方向性について、調査結果や各校の実践例を基に

る「教育DX」の位置付けを示すとともに、デジタル教科書活用の取組として、仁王小学校、下橋中学校の実践例、AI型ドリルの活用例が発表されました。

〔発表後の感想から〕

・不登校対応について、校内教育支援センターの設置や運営も含め、各校の工夫や成果が共有できた。現在対応できていても、今後異なる状況になった時に自校の組織体制に応じた更なる工夫や改善に参考となる発表内容であった。
・デジタル教科書の有用性がよく分かった。ICT教具はまず試してみることが不可欠であるが、手段を目的化せず長所短所に応じて使い分けることが大前提。その上で、どんな資質・能力を身に付けるか考え続け、授業を構成するにかにかかっている。教科の特性に応じて試行錯誤していく必要があると感じた。
・両発表とも時宜を得た課題であり、各学校現場で苦労していることと思った。3学期からの実践に意欲が沸いた。
・両発表とも数値発表だけではなく、先進的に取り組んでいる学校の実践を紹介しているところがよかった。説得力があった。

分科会発表

〔学力向上(外国語)分科会〕

諸調査結果及び実態を踏まえ、そこから考えられる課題と、それらを解決するために有効であると思われる指導改善アイデアに係る実践を各研究員が提案しました。参会者との協議を通して、言語活動を通して指導することや、内容や時間のまとまりを意識した指導計画など、英語授業の一層の質の向上について共通認識をもつことができた充実した分科会となりました。



学力向上(外国語)分科会

〔分科会後の感想から〕
・レベルの高い素晴らしい発表だった。中坂先生の生徒と作った3年間の学習到達目標や二つの視点からの繰り返し練習の練り上げと振り返り。伊藤

先生の speaking での正確性を意識した生徒の修正。大澤先生の教科書を活用し尽くす「ペリ」からの writing と音読の自由進度学習。主流でありながら新たな視点を取り入れており、確実に力の付く実践と感じた。

・長いスパンでのゴール設定、小中のつながり、領域を統合した言語活動等、自分も生徒の実態に合わせて取り組んでいきたい。

〔学力向上(算数・数学)分科会〕

児童生徒の数学的な見方・考え方を豊かにすることを目指した授業実践を行い、その成果と課題を踏まえた授業改善例の提案発表を行いました。小中学校の教員が、算数・数学の学習における児童生徒のつまづきを知り、その解消に向けた互いの授業づくりを理解する有意義な時間となりました。

〔分科会後の感想から〕

・数学的な見方・考え方は、言語活動を充実させながら、数学的表現をして伝え合うことを通して鍛えるという実践発表がとても勉強になった。
・学調分析と考察、授業改善を具体的に示していただいたことに敬意を表したい。正答率と学習意欲の相関関係につ

いては、上学年ほど顕著であり、個に応じた支援や協働的な学びの必要性を再確認できた。

・学力向上へのアプローチのヒントを得ることができた。データのクロス集計は、本校でも再確認したいと感じた。



学力向上（算数・数学）分科会

【体力向上分科会】

教育活動全般を通して「楽しさ」を追究した体力向上の取組や運動領域に応じた「楽しさ」を追究した準備運動が紹介されました。サッカーやハンドボールを取り入れた工夫ある体力向上実践等の研修も行い、楽しく学び、充実した時間となりました。

〈分科会後の感想から〉

・体力向上の課題解決に向けて、どのような取組を行うことが効果的であるか実践を交

えて学ぶことができた。小学校の先生方とも一緒に行ったことで、生徒への伝達の仕方や言葉の選び方など新しい視点での学びも多く得た。

・体力向上、各領域において「楽しさ」を感じさせることに着目しつつ、走力・瞬発力の向上を図る手立てとして、セツトメニューやウォーミングアップを位置付けた取組事例の発表と実技実践が大変勉強になった。



体力向上分科会

【先人教育分科会】

「先人教育」について、大宮中学校区（大宮中・本宮小・太田小・太田東小）、北陵中学校区（北陵中・北厨川小・城北小・月が丘小）の2つの中学校区が実践を発表しました。それぞれ、学ぶ意欲・目的を培う教育活動と位置付け

られており、小中一貫教育の視点を大切にした各中学校区の取組は、参加者にとって、学びの多い発表となりました。



先人教育分科会

〈分科会後の感想から〉

・各学校で地域人材等を活用して先人教育に取り組んでいる発表が参考になった。まずは自分が盛岡の先人について学ぶ必要があると感じた。また、キャリア教育とも関連させながら、身近な地域の方々から生き方を学んでいくことにも取り組むみたいと思った。

・大宮中学校区は原敬を軸に、学区にある記念館を活用しながら地域の偉人に誇りをもつ先人教育を行えるとても羨ましい環境だと思った。神楽等の伝承者を地域の偉人として取り上げているのもよかった。北陵中学校区は「みたけ

のこども」をキーワードに取り組んでいるのが興味深かった。学区で多様な動植物を観察することができると県営運動公園を管理維持している人に気付けさせる実践も参考になった。

【研究指定校中間発表】

来年度に学校公開研究会を控えた厨川中学校区（厨川中・青山小・大新小）（令和5、7年度指定）と仁王小学校（令和7年度指定）、緑が丘小学校（令和7年度指定）の3校に、研究推進の状況について発表いただき、これまでの研究成果と今後の取組の方向性について、確認がなされました。



研究指定校中間発表

〈中間発表後の感想から〉

・各校、それぞれ教育的な願いのもと実践研究を進める姿に頭が下がる思いだった。小中連携の中で研究を進める厨川中学校区の発表では、子どもの実態をQ Uやコロナ禍等のバックグラウンドまで含めて丁寧に捉えている点に共感した。仁王小の発表では「教えたことが学びたいことへ」という非常に素敵な言葉と出会えた。これは私たちがとって根本的なテーマである。

・緑が丘小のプレ公開が土曜日開催と知り、画期的だと思った。ぜひ参加したい。・中間発表と言いつつも、既に完成度の高い内容であった。ぜひ7年度の公開授業を参観したいと思った。

盛岡市教育研究所では、研究成果の普及を目的として、「研究紀要」を作成しております。

P D Fデータ版を各学校へ送付するとともに、教育研究所 HP に掲載いたします。

各学校における今後の研究推進に、ぜひ御活用ください。

教育で大切にしたいこと

「教職員へのメッセージ」

小・中学校長会の会長として、盛岡市の学校教育を牽引していただいたお二人の校長先生からのメッセージです。

子どもの「する」が溢れる
「子どもが主語」の学校に

盛岡市小学校長会

会長 高畑 嗣人

(盛岡市立緑が丘小学校)



「子どもが主語」という言葉があります。この「子どもが主語」は、

「令和の日本型学校教育」の一丁目一番地です。今までの学校は、教師が「させる」とに溢れていました。「させる」のうまい教師が「力のある教師」でした。これからは、子どもが自ら進んで「すること」に溢れる学校にしていかなければなりません。子どもが進んで「すること」を上手に促す教師が「力のある教師」になります。

そのためには、学びの出発点を子どもの思いや願いにしたいものです。例えば、教えることが決まっている算数の授業でも、導入に一工夫すること、子どもたちが自分事として問題を捉え、自らハン



新編「新しい算数」
2年下 (p 90)

ドルを握って走り始めます。2年生の「はこの形」の単元、家からたくさんさんの空き箱を持ち寄り、授業を始めます。班ごとに、机を合わせて箱を置いたら、ゲームを始めます。

「みんなが集めた箱を積み重ねて、高さ比べをしましょう。できるだけ高く積み上げた班が勝ちですよ。」

子どもたちは競い合って高く積み上げます。ほどなく終了の合図をして高さを比べます。一位の班を決めたところで次のように問いかけます。

「積み上げるときに目を付けたことは何ですか。」

子どもたちからいろいろな意見が出されます。その中でも、辺の長さに着目して、できるだけ長い辺の箱を縦に使った班を取り上げて、「辺の長さに目を付けたんだね」と

価値づけします。また、安定をねらって広い面を積み上げた班には、「面の広さに目を付けたんだね。」と声をかけます。そして、ポテトチップスの円柱の筒の箱を見せて「これを寝かせて使った班はなかったけど、どうしてかな。」と問いかけます。「平らじゃないから危ないもん。」と言って面の形に着目してもらえればしめたものです。子どもたちは、箱を高く積み上げる活動を通して、自分自身の必要感をもってこの単元で働かせたい数学的な見方・考え方である「図形の構成要素に着目すること」を始めたわけですね。

教材との出会いで学びを自分事として捉えることができれば、どの単元でも投げかけていきたい言葉は、「次は何をしたいかな。」です。

これからの盛岡市の教育が、ますます「子どもが主語」になり、子どもが自ら進んで「すること」に溢れる学校になることを祈っています。

バトンをつなぐ
盛岡市中学校長会

会長 三浦 隆

(盛岡市立黒石野中学校)



「教職員へのメッセージ」との依頼ですが、これまでの

勤務経験で特に若い先生方や教員を目指す学生さん方と接する機会があり、その際に伝えてきたことを三つ紹介します。

一つ目は「教科の専門性を磨く」ということです。教員の一番の仕事はやはり授業です。中学校はもちろんですが、小学校でも何か自分の得意な教科を一つは身に付けると良いと思います。専門性を磨くことは、その教科の面白さ、魅力を追及することに通じます。教師自身がその面白さを感じていなければ、子ども達の目は輝きません。

二つ目は「夢中になれることをもつ」ことです。これは、出来れば部活動や教材研究などの学校の中のこととは別に、もつことをおすすしめします。趣味としてのスポーツ、料理や旅行、何でも良い。学校の外に自分の世界をもう一つもつことが大切です。学校以外のチャンネルをもつと、例えば学校で何か苦労があっても、その時間は別のことに集中でき、リフレッシュされる

ことがよくあります。また、学校外の世界が自分の視野を広げたり、新たな人とのつながりを生んだりして、自分の人生を豊かにしてくれます。それが学校で子ども達の指導に還元できることもありま

す。三つ目は「子どもによりそ

う」ということです。私が一番大切だと思うのは、子どものもつ可能性をとことん信じてあげることです。これは、私の大学時代の恩師に教えてもらったことですが、大田堯という教育者が「一粒の種の中に生長の設計図がある」ということを話しています。大田氏は有機農業に取り組みある農夫から「リンゴの種の一粒子にはちゃんと設計図が入っていて、太陽や空気の影響で自ら伸びていく力が含まれている。自分の仕事はその種を持つて自然の力を大事に育て、その発達の道筋を励まし手助けすることだ」と教えられたそうです。そしてそれは教育にも通じることがあると語っています。私たち教員は、教育と言えど子ども達に何かを教え、指導することだと考えてしまいがちです。しかし、授業でも何でも、子どもにはもともと学ぶ力が備わっていると考えれば、その力をどう引き出すかを工夫し、学びの環境を整え、励ましの水遣りをするのが大事だと気付かれます。

お気付きの通り、最初の二つは昔から言われている研究と修養のこと、そして三つ目も恩師からの受け売りです。こうして先輩方からのバトンをつないで、私からのメッセージとします。

盛岡版アウトリーチ型支援

「誰一人取り残さない教育」の推進のために

市教育委員会では「不登校児童生徒支援プラン」を策定し、「安心して学べる学校づくり」「組織的な初期対応」「学びの継続支援」の3つを重点的に取り組んでいます。

そこで今年度から「ひろばモリーオ」の教育相談員等が各学校を訪問し「学校づくり」や「学びの場の保障」に関わるサポートを始めています。1学期に全中学校、2学期に全小学校を訪問し、不登校対策や校内教育支援センターの設置状況について、校長や担当教諭から話を伺ったり、一緒に検討したりしました。

1 「不登校対策」の検討・助言

学校の状況に応じた機能的な支援体制や、対象児童生徒の状況に応じた関係機関との連携の在り方、保護者の状況に応じた家庭訪問等について、「チーム学校」の一員となり一緒に検討した

り、有益な情報を提供したりします。

2 「校内教育支援センター」の検討・助言

設置や運営の充実に向けて、校内の資源をどのように活用するか、また、センター内での支援の充実をどのように図るかについて、担当教員と一緒に見直したり、改善策を提案したりします。

3 「ケース会議」への参加（一緒に協議）

初期対応から対応困難なケースまで、学校の要望に応じて、対策チームの一員となり支援策のPDCAを行います。SCやSSWとも連携を図りながら、適切なアセスメントについてもサポートします。

7年度の訪問やケース会議要請の詳細については、4月にお知らせいたします。ぜひ御活用ください。

不登校児童生徒支援プラン
～重点取組の推進～

盛岡版アウトリーチ型支援 ～校内教育支援センターの整備と支援の充実～



誰一人取り残さない教育
の推進のために



盛岡市
Morioka City

学校の取組

- 1 安心して学べる学校づくり
- 2 組織的な初期対応
- 3 学びの継続支援

学校づくりの支援

- 支援体制の整備
- 学びの場の保障

不登校対策の充実

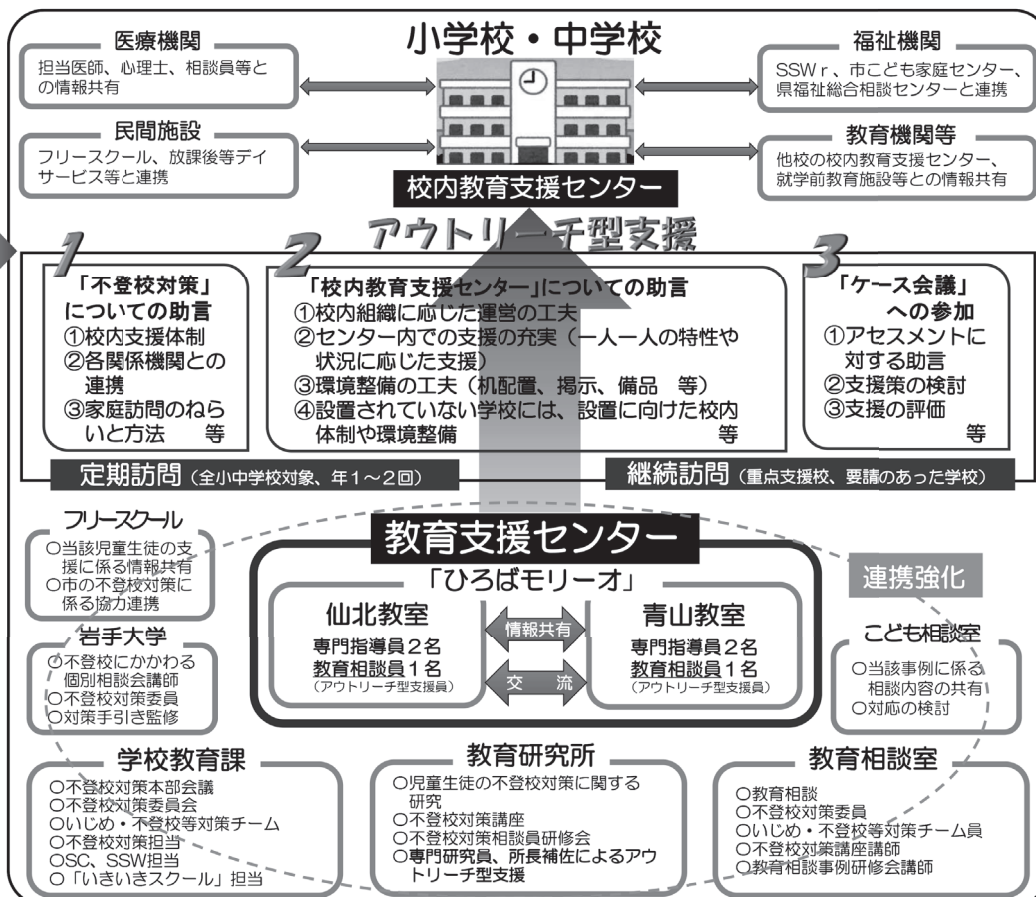
「不登校対策マニュアル」を活用し、支援体制の整備と支援の具体について理解を推進する。

校内教育支援センターの整備

学習・生活環境や支援体制を整えた、常時又は適宜開室している「教室以外の居場所」、又は、保健室等で教職員から、受容・共感等の支援が受けられる「ひと休みの場所」を整備する。

個の状況に応じた支援

適切なアセスメントを行い、一人一人の状況や特性に応じた支援の検討・実施・評価を行い、充実を図る。



点在する支援のネットワーク化

令和6年度

盛岡市教育振興運動実践発表大会

盛岡市の教育振興運動は、今年度59年目を迎える歴史ある市民運動です。

今年度は、第12次5か年計画の4年目を迎えました。5年間を通しての共通目標である、「地域総ぐるみで『たくましく生きる盛岡の子』を育もう」をテーマに、6地区での地区集会在実施され、各地区の実践を交流する貴重な機会となりました。

地区集会で発表された河南中学校区、山岸小学校区の2中学校区の実践と、健やかに育つ児童生徒の発表・表彰の姿を通して、今年度の運動の成果を確認することができました。

実践発表

河南中学校区

「地域・家庭・学校の連携により地域社会の一員としての誇りを持ち、地域の発展を担うひとづくり」を实践主題とし、地区の夏祭り等の地域行事への参加をはじめとする多くの交流活動が、生徒を中心として積極的に展開されていきました。生徒が、地域の役に立っていることを実感したり、地域から支えられていることを自覚したりできる取組を紹介いただきました。

山岸小学校区

地域の伝統芸能「山岸さんさ踊り」の継承への取組や、岩谷稻荷神社例大祭、GBMスポーツ大会などの地域行事、そして、図書ボランティア「トトロの会」の皆さんによる「読み聞かせ会」など、地域と連携し、充実した活動が展開されている学校区です。子どもたちが、様々な地域の体験活動への参加を通して、地域の方々との交流を深めながら地域を愛する心情を育むとともに、伝統芸能への誇りを育んでいる様子が発表されました。



【山岸小学校 読書ボランティア「トトロの会」】



【河南中学校 応援団】

児童生徒発表

山岸小学校「合唱クラブ」

山岸小学校合唱クラブは歌の大好きな仲間が集まり、「いつも全力！この歌に思いをのせて」歴史に残る合唱クラブに「をスローガンに、聴いている方に音楽の魅力を届けようと、毎日の練習の成果を発表いただきました。



【山岸小学校 合唱クラブ】

今年歌ってきたお気に入りの曲やコンクールで取り組んできた曲を中心に、全9曲のプログラムを組み、旋律や和音の美しさ、歌詞の情景など、音楽の魅力が伝わる発表に、会場は大きな拍手に包まれました。

令和6年度山岸小学校

「合唱クラブ」の主な活躍

- ・ 全日本合唱コンクール岩手県大会金賞
- ・ NHK全国学校音楽コンクール東北ブロックコンクール銀賞
- ・ こども音楽コンクール東北大会優秀賞・審査員特別賞受賞

令和6年度

第21回 盛岡市教育委員会児童生徒表彰 第19回 盛岡市小中学生俳句・短歌大会

令和6年度の「児童生徒表彰」並びに「俳句・短歌大会」の表彰式が、令和7年2月1日（土）に盛岡市民文化ホール（マリオス）で開催されました。児童生徒表彰受賞者と、俳句・短歌大会各部門において特選に選ばれた方々の作品をご紹介します。

児童生徒表彰

【努力の部】

盛岡市立仙北中学校

3年 福田 乙葉さん

《授賞理由》

小学校入学前から柔道を始めた福田さんは、全国制覇を目標に、日々練習に励んできました。中学最後の全国大会となった、昨年8月の全国中学校体育大会では、努力が実を結び、3位入賞を果たしました。岩手県勢の表彰台は6年ぶりの快挙となります。

【努力の部】

盛岡市立洪民中学校

特設演劇部（群読劇）

代表 鴨反 美来さん

《授賞理由》

本特設演劇部は、10年以上



にわたり、石川啄木等を題材とした群読劇に取り組んでいます。練習は放課後の限られた時間で行い、キャストの他、照明等の係も全て生徒が担い、よりよい表現を追求してきました。その活動は、地域の芸術文化の発展にも大きく貢献しています。

俳句・短歌大会

俳句の部（特選）

【小学生低学年の部】

祖母わらう
夏豆一さや
あげたから

杜陵小 2年 山根悠輝

【小学生中学年の部】

ぼくスイカ
まつすぎきたぞ
もうだめだ

仁王小 4年 菅原奨矢

【小学生高学年の部】

石英に
かくれんぼする
光る石
太田東小 5年 福本彩乃

【中学生の部】

楽器庫の 扉開ければ
湿気の香
下小路中 3年 平山奈沙

短歌の部（特選）

【小学生低学年の部】

ともだちの
ひじがあたつてはがぬけた
じぶんであげず
ともだちのおかげ
太田小 1年 山崎 樹

【小学生中学年の部】

日やけた
ぼくとならんだお母さん
オセロみたいと
笑って言った。
城北小 3年 三田地凌雅

【小学生高学年の部】

梅の木の花のそばに
メジロ鳴き 蜜をすう姿
時間が止まる
月が丘小 5年 関留衣乃

【中学生の部】

今日だけは
泣いてもいいよと
言うように 雲一つない
藍色の空
米内中 2年 熊谷なごみ

学校賞

大会への参加率と入賞率が高い学校に贈られます。

【小学校】 本宮小学校

【中学校】 土淵中学校



【応募総数】

俳句 8573作品
短歌 7491作品

【審査いただいた方々】

国際俳句協会会員

・馬場 吉彦 先生
元岩手県歌人クラブ
及び白蘋短歌会

・菊澤 研一 先生
・山本 豊 先生

「盛岡の先人教育」第3期推進計画（案）

盛岡の子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を

盛岡の先人教育



新渡戸 稲造



原 敬



米内 光政



金田一 京助



石川 啄木

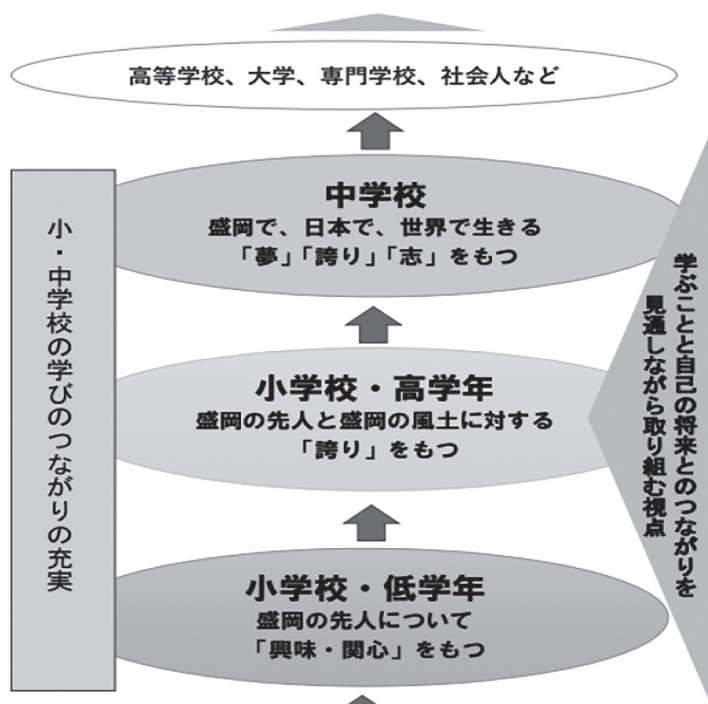
盛岡市の先人教育は、平成19年より盛岡市の全小・中学校で実施され、各教科や道徳、総合的な学習の時間などの全教育課程をとおして行われています。

初の平民の総理大臣となった 原敬、国際平和に尽くした国際人 新渡戸稲造、戦争を終わらせるために努力した大臣 米内光政、アイヌ語研究に取り組んだ国語学者 金田一京助、故郷を思う天才歌人 石川啄木などの、盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことをとおして、次代を担う子どもたちに将来の夢や「ふるさと盛岡に対する愛着」「目標に向かって努力する心」を育むことをめざした教育を推進しています。

第3期推進計画（案）

「小・中学校の学びのつながりの充実」と「キャリア教育の視点」で
未来につなげる「盛岡の先人教育」の実践

多くの先人を育ててきた美しいふるさと盛岡を愛し、
豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に未来を創る人



平成27年度から令和6年度まで取り組んできた「第2期推進計画」では、小・中学校間でどのような取組がされているかの理解が進みました。

「第3期推進計画」では、さらなる「小・中の学びのつながりの充実」を一つ目のポイントとし、それぞれの取組を整理したり、中学校区での学びのつながりが系統的なものになっているか確認したりして、学びを充実させていきます。

また、二つ目のポイントは、盛岡にゆかりのある先人たちの生き方を学ぶことをとおして、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら取り組む「キャリア教育の視点」をもとに、自己の在り方や生き方を考え、未来を創造する主体性を育む児童生徒の育成をめざします。

▼光陰流水の日々の中で、たゆまず研究・研修に取り組み、子どもたちの「確かな学力の向上」と「誰一人取り残さない教育の推進」を追求してきました。▼

教員の「研修観の転換」が求められる今こそ、「教育研究所における研究」の真価が問われていると感じます。「力のある教師」を目指し、探究心を持つて自律的に学ぶことができる研修の場の提供に次年度も努めます。▼私たちの研修の成果が、子どもたちの輝かしい活躍や豊かな表現となって表われたとき、そして、その喜びを皆で分かち合えたときの幸せは、筆舌に尽くし難いものです。▼俳句・短歌に見られた子どもたちの柔らかな感性には、大人たちも心が震えたことでしょう。先生方が引き出してくださった、その子にしかない輝きが「ことば」となって表われた営みといえます。▼すべては子どもたちの笑顔のためにと、がむしゃらに駆け抜けた1年が終わろうとしています。であればなおさらここで、行雲流水のごとき心境になることも必要ではないでしょうか、次なる「バトンをつなぐ」ためにも。

あ
と
が
き

